

平成23年度登録販売者試験問題

茨城県

(平成23年9月24日 午後)






分野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40問)	60問	120分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- 1 この試験問題における「薬事法」は、薬事法の一部を改正する法律（平成18年法律第69号）による改正後の薬事法とする。
- 2 試験問題は問61から問120までの60問で、解答はすべて答案用紙に記入すること。1つの解答欄に複数解答した場合、その箇所は無効とする。
- 3 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者は、試験を無効とし、または合格を取り消すことがある。
- 4 答案用紙は折り曲げたり、汚したりしないこと。また、誤って記入した場合は、消し跡が残らないように消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払っておくこと。
- 5 退場する時は、答案用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従うこと。
- 6 この問題用紙は持ち帰ることができる。

【 答案用紙への記入上の注意 】

- ①受験番号、氏名のフリガナに誤りがないことを確認し、氏名を記入してください。
- ②マークはHBより濃い鉛筆で、解答の数字の枠の中を塗りつぶしてください。
- ③マークを消す時は、消しゴムで完全に消し、消しくずはよく払ってください。
- ④マークの仕方 良い例  悪い例    
薄い 短い 細かい はみでる

主な医薬品とその作用（40問）

【問6 1】 かぜやかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぜ薬とは、かぜの諸症状の緩和を目的として使用される医薬品の総称であり、総合感冒薬とも呼ばれる。
- b かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から取り除くものではなく、咳で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図るものである。
- c 発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしている場合には、かぜ薬が選択されるのが最適である。
- d かぜの症状は、生体にもともと備わっている免疫機構によってウイルスが排除されれば自然に治るので、安静にして休養し、栄養・水分を十分に摂ることが基本となる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問6 2】 かぜ薬に配合される次の成分のうち、痰の切れを良くする目的で配合されるものの正しい組み合わせはどれか。

- a サリチルアミド
- b メキタジン
- c 塩酸エチルシステイン
- d 塩酸ブロムヘキシシ

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問6 3】 次のうち、かぜの症状の緩和に用いる漢方処方製剤として、適当でないものはどれか。

- 1 半夏厚朴湯
- 2 小柴胡湯
- 3 桃核承気湯
- 4 小青竜湯

【問64】 痛みや発熱が起こる仕組みや解熱鎮痛薬の働きに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 発熱は、細菌やウイルス等の感染等に対する生体の防御機能の一つとして引き起こされる症状である。
- b 発熱に関係するプロスタグランジンは、脳の下部にある温熱中枢に作用して、通常よりも高く体温が調節されるようにする。
- c 解熱鎮痛薬は、痛みや発熱の原因となっている病気や外傷自体を治すものでなく、痛みや発熱を鎮めるために使用される。
- d 漢方処方製剤を除く解熱鎮痛薬は、月経痛のほか痙攣性^{けいれん}の内臓痛についても効果が期待できる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤

【問65】 次のうち、鎮痛の目的で用いる漢方処方製剤として、適当でないものはどれか。

- 1 芍薬甘草湯^{しゃくやくかんそうとう}
- 2 桂枝加朮附湯^{けいし かじゆつ ぶとう}
- 3 薏苡仁湯^{よくい にんとう}
- 4 消風散^{しょうふうさん}
- 5 呉茱萸湯^{ごしゆゆとう}

【問66】 一般用医薬品である睡眠改善薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬は、一時的な睡眠障害の緩和に用いられるものであり、慢性的に不眠症状がある人を対象とするものではない。
- b 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害については、ホルモンのバランスや体型の変化等によるものであり、睡眠改善薬の適用対象となる症状ではない。
- c 抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬は、まれに眠気とは正反対の作用を生じて、神経過敏や興奮などが現れることがあるが、小児ではそうした副作用は起きにくい。
- d ブロムワレリル尿素は、胎児に障害を引き起こす可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正

【問67】 カフェインに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a カフェインは、脳に軽い興奮状態を引き起こす作用を示し、眠気や倦怠感を一時的に抑える効果が期待される。
- b カフェインには、作用が弱いものの、反復して摂取すると習慣になりやすい性質がある。
- c 一般用医薬品の眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして200 mg、1日摂取量では1000 mgが上限とされている。
- d カフェインは、腎臓での水分の再吸収を促進する働きがあり、尿量の増加（利尿）をもたらす。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正

【問68】 次のうち、鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の有効成分として配合されないものはどれか。

- 1 塩酸ジフェニドール
- 2 ジメンヒドリナート
- 3 塩酸メクリジン
- 4 イブプロフェン
- 5 ロートエキス

【問69】 次のうち、鎮咳又は去痰作用を期待して配合される生薬成分として適当でないものはどれか。

- 1 キョウニン
- 2 カシュウ
- 3 ゴミシ
- 4 セネガ

【問 7 0】 口腔咽喉薬及び含嗽薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 口腔咽喉薬は、口腔内又は咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を目的とするもので、口腔及び咽頭の殺菌・消毒を目的とするものではない。
- b 含嗽薬は、口腔及び咽頭の殺菌・消毒・洗浄、口臭の除去等を目的として用いる外用液剤である。
- c 口腔咽喉薬及び含嗽薬は、成分の一部が口腔や咽頭の粘膜から吸収されて循環血液中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
- d ヨウ素系殺菌消毒成分を含む含嗽薬は、副作用として口腔粘膜の荒れ、灼熱感が現れることがあるが、ヨウ素は胎盤関門を通過しないため、妊娠中の女性でも長期に渡り使用することができる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 1】 次のうち、鎮咳成分として鎮咳去痰薬に配合されないものはどれか。

- 1 塩酸ノスカピン
- 2 臭化水素酸デキストロメトルファン
- 3 リン酸ジメモルファン
- 4 塩酸チアミン
- 5 リン酸コデイン

【問 7 2】 心臓の働き及び心臓に作用する薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 激しい運動をしたり、興奮したときなどの動悸や息切れは、正常な健康状態でも現れる。
- b 動悸や息切れは、睡眠不足や疲労による心臓の働きの低下のほか、不安やストレスによっても起こることがある。
- c 強心薬は、心筋に作用して、その収縮力を高めるとされる成分が主体として配合されている。
- d 心臓は、体性神経系によって調整がなされている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正

【問 7 3】 高コレステロール改善薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常の改善、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害の緩和等を目的として使用される医薬品である。
- 2 高コレステロール改善薬は、末梢組織へのコレステロールの吸収を抑えたり、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す成分が主体として配合されている。
- 3 ソイステロールは、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされ、LDLの分解を促し、HDLを増加させる効果を期待して用いられる。
- 4 ポリエンホスファチジルコリンにより、^{おしん}悪心、胃部不快感、胸やけ、下痢の消化器系の副作用が現れることがある。

【問 7 4】 貧血用薬（鉄製剤）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄欠乏性貧血に対して不足している鉄分を補充し、造血機能の回復を図る医薬品である。
- b 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、食後に服用することが望ましい。
- c 服用の前後にビタミンCを含む清涼飲料水を摂取すると、ビタミンCと鉄が反応して鉄の吸収が悪くなる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 7 5】 循環器用薬として用いられる漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ^{さんおうしゃしんとう}三黄瀉心湯を鼻血に用いた場合で、5～6回使用しても症状の改善がみられないときは、いったん使用を中止して専門家に相談がなされることが望ましい。
- b ^{さんおうしゃしんとう}三黄瀉心湯を使用している間は、^{しゃ}瀉下薬の使用を避ける必要がある。
- c ^{しちもつこうかとう}七物降下湯を比較的長期間（1ヶ月位）服用する場合には、一定期間使用した後も専門家に相談する等、症状の経過や副作用の発現に留意することが重要である。
- d ^{しちもつこうかとう}七物降下湯は、15歳未満の小児への使用は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問 7 6】 婦人薬に配合される女性ホルモン成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける必要がある。
- b 膣粘膜又は外陰部に適用された女性ホルモン成分は、適用部位から吸収されるが、循環血液中に移行することはない。
- c 女性ホルモン成分の長期連用により血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌^{がん}や脳卒中などの発生確率が高まる可能性がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 7 7】 次のうち、抗ヒスタミン成分としてアレルギー用薬に配合されないものはどれか。

- 1 フマル酸クレマスチン
- 2 塩酸トリプロリジン
- 3 テオクル酸ジフェニルピラリン
- 4 塩酸ピリドキシン

【問 7 8】 鼻炎用内服薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 重大な事故につながるおそれがあるため、抗ヒスタミン成分が配合された内服薬を服用した後は、乗物又は機械類の運転操作を避けることとされている。
- b 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗アドレナリン作用も示すため、排尿困難や口渇の副作用が現れることがある。
- c 塩酸プソイドエフェドリンは、中枢神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。
- d 皮膚や粘膜の健康維持・回復に重要なビタミンを補給することを目的として、ビタミンB₆、ビタミンCが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問 7 9】 鼻炎用点鼻薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スプレー式鼻炎用点鼻薬は、使用後に鼻に接した部分を清潔なティッシュペーパー等で拭き、必ずキャップを閉めた状態で保管し清潔に保っておく必要がある。
- b 塩酸テトラヒドロゾリンは、鼻粘膜を通っている血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として配合されている。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞から遊離したヒスタミンの働きを抑えることにより、鼻炎の症状を緩和することを目的として配合されている。
- d 鼻炎用点鼻薬には、鼻以外の器官や臓器に影響を及ぼすおそれのある成分も配合されていることから、3日位使用しても症状の改善がみられない場合には、医療機関を受診することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	正

【問 8 0】 尿糖・尿蛋白^{たん}検査薬を用いた検査に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 検査結果が陽性の場合には、疾患の確定診断や適切な治療につなげるため、早期に医師の診断を受ける必要がある。
- b 医師から処方された薬剤には、検査結果に影響を与える成分は含まれていることはない。
- c 尿糖検査の場合、出始めの尿を採取することが望ましい。
- d 尿蛋白^{たん}値に異常を生じる要因として、ネフローゼ、尿路結石、膀胱炎^{ぼうこう}等がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正

【問 8 1】 次の表はある消化器官用薬に含まれている成分の一覧である。

(3錠中)	
アルジオキサ	300 mg
ケイヒ末	402 mg
ウイキョウ末	102 mg
炭酸マグネシウム	150 mg
合成ヒドロタルサイト	750 mg

この医薬品に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 アルジオキサ及び合成ヒドロタルサイトは、アルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人ではこの医薬品の使用を避ける必要がある。
- 2 ケイヒ末は、苦味による胃粘液の分泌作用を期待して用いられる。
- 3 炭酸マグネシウムは、胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する作用を期待して用いられる。
- 4 合成ヒドロタルサイトは、マグネシウムを含み、過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して用いられる。

【問 8 2】 次の記述にあてはまる医薬品成分はどれか。

中和反応によって胃酸の働きを弱めることを目的として胃の薬に配合される。また、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、大腸を刺激して排便を促すことを目的として瀉下薬にも配合される。

- 1 炭酸水素ナトリウム
- 2 沈降炭酸カルシウム
- 3 天然ケイ酸アルミニウム
- 4 酸化マグネシウム

【問 8 3】 胃腸に作用する薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 次没食子酸ビスマスは、腸管の運動を低下させ、水分や電解質の分泌を抑えることを目的として配合される。
- b 塩酸セトラキサートは、体内で代謝されてトラネキサム酸を生じることから、血液凝固異常（出血傾向）の症状がある人では、出血傾向を悪化させるおそれがある。
- c クレオソートは、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられるほか、局所麻酔作用もあるとされる。
- d マレイン酸トリメブチンは、消化管の平滑筋を支配している自律神経に働いて、消化管運動が低下しているときは亢進的に、運動が亢進しているときは抑制的に働くとされる。
- e タンニン酸アルブミンに含まれるアルブミンは、鶏卵の卵白から抽出した蛋白質であるため、鶏卵アレルギーがある人では使用を避ける必要がある。

- 1 (a、c) 2 (a、e) 3 (b、d) 4 (b、e) 5 (c、d)

【問 8 4】 瀉下薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ヒマシ油は、主に誤食・誤飲等による中毒に用いられ、特に脂溶性の防虫剤や殺鼠剤を誤って飲み込んだ場合に適している。
- 2 ジオクチルソジウムスルホサクシネートは、腸内容物に水分が浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増して柔らかくすることによる瀉下作用を期待して用いられる。
- 3 センナは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）されて生じるガスによって便通を促し、瀉下作用を示すとされている。
- 4 ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸で分解され、大腸で吸収されて瀉下作用を示す。

【問 8 5】 胃腸に作用する薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ジアスターゼは、胃粘液の分泌を促す作用を期待して用いられる。
- 2 アズレンスルホン酸ナトリウムは、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として用いられる。
- 3 ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。
- 4 スクラルファートは、脂質の分解に働く酵素を補うことを目的として用いられる。
- 5 銅クロロフィリンナトリウムは、味覚や嗅覚を刺激して反射的な唾液や胃液の分泌を促す作用を目的として用いられる。

【問 8 6】 次の表はある一般用医薬品A及びBに含まれている成分の一覧である。

【医薬品A】	(9錠中)	【医薬品B】	(2錠中)
タンニン酸バルベリン	180 mg	ビスコジル	10 mg
アクリノール水和物	90 mg		
ロートエキス散	200 mg		
ゲンノショウコエキス	300 mg		

次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品Aは、使用上の注意として、心臓病や緑内障の診断を受けた人は、医師または薬剤師に相談することとされている。
- b 医薬品Aには、胃腸に対する鎮痛鎮痙効果を期待した成分が配合されている。
- c 医薬品Bは、使用上の注意として、妊婦または妊娠していると思われる人は、医師または薬剤師に相談することとされている。
- d 医薬品A、Bともに、止瀉薬として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問 8 7】 一般用医薬品の駆虫薬に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 回虫や蟯虫^{ぎょう}の他、条虫、吸虫、鉤虫、旋毛虫、鞭虫等の駆除を目的として用いられる。
- 2 腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵には駆虫作用が及ばない。
- 3 サントニン^{ぎょう}は、蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。
- 4 パモ酸ピルビニウムは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

【問 8 8】 滋養強壮保健薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンA主薬製剤は、エルゴカルシフェロール又はコレカルシフェロールが主薬として配合された製剤で、目の乾燥感、夜盲症（とり目）の症状の緩和等に用いられる。
- b ビタミンB₂主薬製剤は、酪酸リボフラビン等が主薬として配合された製剤であり、摂取により尿が黄色くなることがある。
- c システインは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドと直接反応して代謝を促す働きがあるとされる。
- d アミノエチルスルホン酸は軟骨組織の主成分で、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 8 9】 一般用医薬品である禁煙補助剤（^{そしゃく}咀嚼剤）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 1度に2個以上の使用は避ける必要がある。
- 2 コーヒーや炭酸飲料などの口腔内^{くわう}を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避ける必要がある。
- 3 6ヶ月を超える使用は避ける必要がある。
- 4 喫煙量を徐々に減らしながら使用する必要がある。
- 5 非喫煙者は使用を避ける必要がある。

【問90】 泌尿器用薬に含まれる次の成分のうち、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられるものはどれか。

- 1 ウワウルシ
- 2 キササゲ
- 3 サンキライ
- 4 ソウハクヒ

【問91】 次の殺菌消毒成分のうち、ウイルスに対して不活性効果を示すものの正しい組み合わせはどれか。

- a エタノール
- b クレゾール石^{けん}鹼液
- c グルコン酸クロルヘキシジン
- d 次亜塩素酸ナトリウム

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問92】 次の記述にあてはまる医薬品成分はどれか。

除虫菊の成分から開発された成分で、比較的速やかに自然分解して残効性が低いため、家庭用殺虫剤に広く用いられている。殺虫作用は、神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害することによるものである。

- 1 ジクロルボス
- 2 フェノトリン
- 3 メトキサジアゾン
- 4 オルトジクロロベンゼン
- 5 ディート

【問93】 外用痔^じ疾用薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 局所への穏やかな刺激によって痒^{かゆ}みを抑える効果を期待して、クロタミトンが配合されている場合がある。
- b 局所麻酔成分は、皮膚や粘膜などの局所に適用されると、その周辺の知覚神経に作用して刺激の伝達を不可逆的に遮断する。
- c ステロイド性抗炎症成分が配合された坐^ざ剤及び注^こ入軟膏では、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。
- d 痔^じ疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として、塩酸ナファゾリンが配合されている場合がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 9 4】 内用痔疾用薬に含まれる成分とその主な配合目的に関する次の組み合わせの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	成分		配合目的
a	オウゴン	—	抗炎症
b	カイカク	—	止血
c	塩化リゾチーム	—	組織修復
d	酢酸トコフェロール	—	鬱血改善

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	正

【問 9 5】 点眼薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点眼の際に容器の先端が眼瞼（まぶた）や睫毛（まつげ）に触れないようにする。
- b 点眼後は、薬液が鼻粘膜や喉からも吸収されることを期待して、目頭を軽く押さえるとよい。
- c 防腐剤が配合された点眼薬は、ソフトコンタクトレンズの装着をしたままの点眼は避けることとされている製品が多い。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正

【問 9 6】 点眼薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性の結膜炎に対して無効である。
- b メチル硫酸ネオスチグミンは、アセチルコリンの働きを抑える作用を示し、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- c スルファメトキサゾールは、結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として用いられる。
- d イプシロン-アミノカプロン酸は、結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

【問 9 7】 殺菌消毒薬及びその成分に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 アクリノールは、連鎖球菌などの化膿菌^{のう}に対する殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対しては効果がない。
- 2 ヨウ素の殺菌力は酸性になると低下するため、石鹼^{けん}と併用する場合には、石鹼分^{けん}をよく洗い落としてから使用することが望ましい。
- 3 ヨードチンキは、化膿^{のう}している部位では、かえって症状を悪化させるおそれがある。
- 4 消毒用エタノールは、皮膚刺激性が強いため、脱脂綿に浸して患部に貼付することは避けるべきとされている。

【問 9 8】 みずむし・たむし用薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、軟膏やクリームよりも液剤が適している。
- 2 塩酸アモロルフィン^{アモロルフィン}は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。
- 3 ウンデシレン酸^{ウンデシレン酸}は、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- 4 ピロールニトリン^{ピロールニトリン}は、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。

【問 9 9】 歯槽膿漏^{そうのうろう}に用いられる外用薬に含まれる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	成分		配合目的
a	塩化セチルピリジニウム	—	殺菌消毒
b	グリチルリチン酸二カリウム	—	抗炎症
c	カルバゾクロム	—	止血
d	アラントイン	—	組織修復

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

【問100】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

口渇があり、尿量が少なく、便秘する人における、蕁麻疹^{じん しん}、口内炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 防風通聖散^{ぼうふうつうしょうさん}
- 2 黄連解毒湯^{おうれんげどくとう}
- 3 茵陳蒿湯^{いんちんこうとう}
- 4 大柴胡湯^{だिसайことう}

医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に用いられる次の標識的マークとそれが付される項目について、正しい組み合わせはどれか。

a



b



c



	a	b	c
1	してはいけないこと	使用上の注意	相談すること
2	してはいけないこと	相談すること	使用上の注意
3	使用上の注意	相談すること	してはいけないこと
4	使用上の注意	してはいけないこと	相談すること
5	相談すること	使用上の注意	してはいけないこと

【問102】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児に使用される医薬品において、その医薬品の配合成分に基づく一般的な注意事項のうち、「服用後、乗物または機械類の運転操作をしないこと」など、小児では通常当てはまらない内容は記載されていない。
- b 「してはいけないこと」の項に「長期連用しないこと」と記載されている場合であっても、症状が改善しない時は、使用し続けることが重要である。
- c 「相談すること」の項に「妊婦または妊娠していると思われる人」と記載されている医薬品は、ヒトにおける具体的な悪影響が判明しているものに限定されている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	誤	誤

【問103】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 重篤な副作用として、皮膚粘膜眼症候群（SJS）、中毒性表皮壊死症（TEN）、喘息^{ぜん}が掲げられている医薬品では、「1年以内に本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人は使用（服用）しないこと」と記載されている。
- b 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に「15歳未満の小児」等として記載されている。
- c 摂取されたアルコールによって医薬品の作用の増強が予測される場合には、「服用時は飲酒しないこと」と記載することとなっているが、現在のところ記載されている製品はない。
- d 眠気や異常なまぶしさが引き起こされる医薬品については、その症状の内容とともに「服用後、乗物または機械類の運転操作をしないこと」等の注意事項が記載されている。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問104】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述のうち、正しい組み合わせはどれか。

- a 摂取した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られているが、「してはいけないこと」の項で「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」として記載するほどではない場合に、「相談すること」の項に「授乳中の人」と記載されている。
- b 「相談すること」の項に記載される「薬によりアレルギー症状を起こしたことがある人」には、他の医薬品でアレルギーの既往歴があっても、その医薬品によりアレルギー症状を起こしたことがない人は該当しない。
- c 「次の診断を受けた人」の項には、現に医師の治療を受けているか否かによらず、その医薬品が使用されると状態の悪化や副作用を招きやすい基礎疾患が示されている。
- d 医療機関で治療を受けている人が、治療のために処方された医薬品の使用を自己判断で控えることができるように、「本剤を使用（服用）している間は、次の医薬品を使用（服用）しないこと」の項に「医療機関で処方された医薬品」として記載されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問105】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 「病気の予防・症状の改善につながる事項」は必須記載とされている。
- 2 「効能又は効果」には、一般の生活者が自ら判断できる症状、用途が示されている。なお、「適応症」として記載されている場合もある。
- 3 「用法及び用量」には、年齢区分、1回用量が記載されている。
- 4 「消費者相談窓口」には、製造販売業者がその医薬品について購入者等からの相談に応じるための窓口担当部門の名称、電話番号が記載されている。

【問106】 独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「緊急安全性情報」や厚生労働省が毎月発行している「医薬品・医療機器等安全性情報」は掲載されていない。
- b 医療用医薬品の添付文書情報は掲載されているが、一般用医薬品の添付文書情報は掲載されていない。
- c 医薬品・医療機器の安全性に関する情報が発出されたときに、当該ホームページへの掲載と同時に、その情報を電子メールにより配信するサービスを行っており、登録販売者は配信登録をすることができる。
- d 当該ホームページは、医療機関や薬局または医薬品の販売業に従事する専門家のみが閲覧することができる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

【問107】 次の成分のうち、その成分が含まれることによって、緑内障を悪化させるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書において、緑内障の診断を受けた者は、その成分が含まれる医薬品を服用する前に、専門家に相談するよう注意を求めているものの、正しい組み合わせはどれか。

- a ケイ酸アルミン酸マグネシウム
- b クエン酸ペントキシベリン
- c テシットデシチン
- d 塩酸ジフェニドール

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問108】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品によっては添付文書の形でなく、薬事法第52条の規定に基づく「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載を、外箱に行っている場合がある。
- b 副作用や事故等が起きる危険性を回避するため、1回服用量中0.1mlを超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壮を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- c 外箱等には、「使用にあたって添付文書をよく読むこと」等、添付文書の必読に関する事項が記載されている。
- d 購入者によっては、購入後すぐ開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも、保管に関する注意事項が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

【問109】 一般用医薬品の添付文書に記載されている「保管及び取扱い上の注意」に関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

可燃性ガスを噴射剤としているエアゾール製品や消毒用アルコール等、危険物に該当する製品における（ a ）に基づく注意事項や、エアゾール製品に対する（ b ）に基づく注意事項については、それぞれ法律上、その容器への表示が義務づけられているが、添付文書において「保管及び取扱い上の注意」としても記載されている。

	a	b
1	消防法	高压ガス保安法
2	毒物及び劇物取締法	高压ガス保安法
3	毒物及び劇物取締法	消防法
4	高压ガス保安法	毒物及び劇物取締法

【問 1 1 0】 一般用医薬品の「保管及び取扱い上の注意」に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 錠剤、カプセル剤、散剤では、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内に保管することは不適當である。
- b シロップ剤は他の剤形と比較して変質しやすいため、開封後は冷凍庫内で凍結させることが望ましい。
- c 眼科用薬は、他の人と共用しないこととされている。
- d 瓶入りの医薬品を旅行に持って行く際には、必要最小限の量を他の容器に入れ替えて携帯することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

【問 1 1 1】 次の記述にあてはまる医薬品成分はどれか。

この成分を含有する外用鎮痛消炎薬の添付文書には、「本剤の使用中は、天候にかかわらず、戸外活動を避けるとともに、日常の外出時も本剤の塗布部を衣服、サポーター等で覆い、紫外線に当てないこと。なお、塗布後も当分の間、同様の注意をすること」と記載することとされている。

- 1 フェルビナク
- 2 ケトプロフェン
- 3 カンフル
- 4 インドメタシン

【問 1 1 2】 塩酸プソイドエフェドリンを主な成分とする一般用医薬品の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 交感神経刺激作用により、尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため、「前立腺肥大による排尿困難」の症状がある人は、使用（服用）しないこと。
- b 徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、「心臓病」の診断を受けた人は、使用（服用）しないこと。
- c 交感神経興奮作用により血圧を上昇させ、高血圧を悪化させるおそれがあるため、「高血圧」の診断を受けた人は、使用（服用）しないこと。
- d 胃液の分泌が亢進し、胃潰瘍の症状を悪化させるおそれがあるため、「胃潰瘍」の診断を受けた人は、使用（服用）しないこと。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

【問 1 1 3】 連用に関する注意が必要な一般用医薬品とその理由の組み合わせのうち、誤っているものはどれか。

[一般用医薬品]	[理由]
1 スクラルファートを含む胃腸薬	— アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがある。
2 ピロキシカムを含む外用鎮痛消炎薬	— 偽アルドステロン症を生じるおそれがある。
3 芍薬甘草湯 <small>しやくやくかんぞうとう</small>	— 鬱血性心不全、心室頻拍の副作用が現れることがある。
4 鼻炎用点鼻薬	— 二次充血、鼻づまりを生じるおそれがある。

【問 1 1 4】 医薬品の安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 1961年に起こったサリドマイド薬害事件を契機として、医薬品の安全性に関する問題を世界共通のものとして取り上げる気運が高まり、各国自らが医薬品の副作用情報を収集、評価する体制（WHO（世界保健機関）国際医薬品モニタリング制度）を確立することにつながった。
- b 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度は、1967年3月より、約3000の医療機関をモニター施設に指定して、承認後の使用成績等を製造販売元の製薬企業が集積し、厚生省（当時）へ提出する制度（再審査制度）としてスタートした。
- c 登録販売者は、薬事法第77条の3第2項により、製薬企業等が行う情報収集に協力するよう努めなければならないこととされている。
- d 血液製剤等の生物由来製品を製造販売する企業に対して、当該企業が製造販売する生物由来製品の安全性について評価し、その成果を定期的に国へ報告する制度が導入されている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

【問 1 1 5】 薬事法第 77 条の 4 の 2 第 2 項の規定に基づく医薬品の副作用等報告に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬関係者は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、その旨を都道府県知事に報告しなければならない。
- b 報告作成にあたっては、副作用の症状がその医薬品の適応症状と見分けがつきにくい場合があるため、購入者等からの訴えに素直に耳を傾け、真摯な対応をする必要がある。
- c 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても、報告する必要がある。
- d 医薬部外品や化粧品の使用によるものと疑われる健康被害についても、自発的な報告が求められている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

【問 1 1 6】 医薬品副作用被害救済制度の救済給付の請求にあたって必要な書類に関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品の使用による副作用被害への救済給付の請求にあたっては、（ a ）、要した医療費を証明する書類（領収書等）などのほか、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の（ b ）の作成した（ c ）等が必要となる。

	a	b	c
1	患者の健康被害届書	製造販売業者	販売証明書
2	患者の健康被害届書	販売業者	相談受付票
3	医師の診断書	製造販売業者	相談受付票
4	医師の診断書	販売業者	販売証明書

【問 1 1 7】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医療費や医療手当などの各種給付の請求は、請求する者の住所地の都道府県知事に対して行う。
- b 医療費の給付は、副作用の原因となった医薬品を製造販売した製薬企業が直接行う。
- c 障害年金、障害児養育年金及び遺族年金については、請求の期限は定められていない。
- d 医薬品的な効能効果が標榜された健康食品の使用に伴う副作用については、医薬品副作用被害救済制度の対象にはならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 1 1 8】 一般用医薬品に対して行われた安全対策に関する次の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

（ a ）は、鼻みず、鼻づまり等の症状の緩和を目的として、鼻炎用内服薬、鎮咳去痰薬、かぜ薬等に配合されていた。

（ a ）含有医薬品については、2000年5月、米国において、女性が（ b ）（日本での鼻炎用内服薬等における配合量よりも高用量）として使用した場合に、（ c ）の発生リスクとの関連性が高いとの報告がなされ、米国食品医薬品庁（FDA）より、米国内における（ a ）含有医薬品の自主的な販売中止が要請された。

	a	b	c
1	マレイン酸クロルフェニラミン	避妊薬	間質性肺炎
2	塩酸プソイドエフェドリン	貧血予防剤	出血性脳卒中
3	塩酸フェニルプロパノールアミン	食欲抑制剤	出血性脳卒中
4	塩酸フェニルプロパノールアミン	避妊薬	間質性肺炎
5	マレイン酸クロルフェニラミン	食欲抑制剤	出血性脳卒中

【問 1 1 9】 医薬品 P L センターに関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任が (a) 場合には、医薬品 P L センターへの相談が推奨される。

平成 6 年、製造物責任法（平成 6 年法律第 85 号。以下「P L 法」という。）が、国会において成立するにあたり、「(b) によらない迅速、公平な被害救済システムの有効性に鑑み、(b) 外の (c) 体制を充実強化すること」が附帯決議され、各業界に対して (b) によらない (c) 機関の設立が求められた。これを受けて、日本製薬団体連合会において、平成 7 年 7 月の P L 法の施行と同時に開設された。

	a	b	c
1	ない	交渉	原因究明
2	ある	裁判	紛争処理
3	ある	交渉	原因究明
4	ある	交渉	紛争処理
5	ない	裁判	紛争処理

【問 1 2 0】 医薬品の適正使用のための啓発活動及び薬物乱用防止に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 登録販売者は、一般用医薬品の販売等に従事する医薬関係者（専門家）として、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のための啓発活動に積極的に参加、協力することが期待される。
- b 医薬品について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年、「薬と健康の週間」として広報活動やイベントが行われている。
- c 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物によるものばかりでなく、一般用医薬品によっても生じることがあり、身近にある一般用医薬品が興味本位で乱用され、それがきっかけとなって違法な薬物の乱用につながることもある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正